

韓国のズグロカモメ 日本に渡来

標識調査で確認

今年6月、韓国の繁殖地で野外観察用のカラーフラッグを付けたズグロカモメ(本紙174号参照)が、11月に入り福岡県や佐賀県、大阪府で確認されている。ズグロカモメは中国と韓国の一部で繁殖し、生息数が少なく絶滅が心配されている。これまでの調査で日本と中国間の渡りは実証されているが、日本と韓国間の渡りを実証されたのは初めて。一連の調査は、環境省から委託を受け実施している。

11月3日から16日にかけて、福岡県北九州市の曾根干潟や佐賀県東与賀町大授揚干潟、大阪府泉南市男里川河口に飛来するズグロカモメの中から、韓国でフラッグを付けた5羽が確認された。地元の博物館職員や野鳥愛好家らの観察でわかった。5羽とも幼鳥で、標識された時はヒナだった。

担当する尾崎清明標識研究室長は「韓国でカラーフラッグを付けたのは60羽のみ。高い確率での発見は両国の渡り鳥の関係の深さを示している」と話している。



▶韓国で標識したズグロカモメ。右脚に黒字で「B7」と書かれた白色フラッグを付けている。曾根干潟で11月7日撮影(写真提供・中尾寛作氏)

